

「女性とスポーツ」各紙掲載記事より

91年7月〜92年2月

●7/17(産経) 名門バレー部監督

が女子部員にいたらず 全国大会で活躍したバレーボールの有名校・市立益田東高校(島根県)の中島三郎監督が、バレー部の部室などで女子部員にいたらずをし、島根県青少年育成条例違反の疑いで逮捕された。

●7/17(日経産業) 子連れママにもゴルフ 託児施設付きコンペ開催

ベビシッター業のアルファコーポレーションは、女性ゴルファーが増えるなか、子育てに追われてプレーできないヤングミセスにゴルフを楽しんでもらおうと、ゴルフ場内に託児施設を設けた。「夏休みレディースゴルフコンペ」を八月に開催する。子供三、四人に対し一人のベビシッターがつく。

●8/16(日経夕刊) 競艇場に美容サロン登場 汚い、怖い、怖いの「3K」イメージを払しょくしようと、丸亀競艇場ではソフト化戦略の一つとして、美容サロンを設置することにした。「競馬だけでなく競艇にも来て」と、担当者。

●8/26(報知) 女子レスリング世界選手権 山本美憂世界一 47キロ級の山本美憂(みゆ、17歳)は、決勝で中国の潘燕萍に逆転のフォールを決め、

初出場初優勝を飾った。日昇たちがはつきりした美少女レスラーにマスコミが殺到。テレビ、雑誌など数10社が押しかけ、会場は大混乱した。

●9/3(報知) 重量挙げ協会が高

校選抜大会で女子の部を設置 日本ウエイトリフティング協会は、3月に行われる高校選抜大会に、女子の部を初めて設けることにした。現在、全国で約30校、60人の女子高生が、重量挙げをしている。不振の男子に比べ、女子はアジア大会で銀2、銅1のメダルを獲得している。

●10/10(日経) 現代っ子の「ひ弱

さ」加速 女の子のダウン顯著 文部省がまとめた「平成二年度体力・運動能力調査」で、十代の子供たちの「投げる」「跳ぶ」の運動能力が落ち込み、特に女子が著しく低下していることがわかった。体力診断テストでも、女子の指数は落ち込みが大きく、男子よりも1〜5ポイント低かった。

●10/14(報知) オリックス新人テ

スト残念女子プロ誕生ならず 女性に門戸を開放したプロ野球オリックスの新人テストに、全日本女子軟式野球連盟に所属する「オール兵庫」の2選手

が、飛び入りで挑戦した。則淳子投手(23)と森井和美内野手(24)の2人。

50メートル走、遠投ともにレベルに達せず不合格だった。球団側は「力不足は否めないが、女性が男性と競い合うのはいいこと。勇気のあるチャレンジ」と、来年以降も女性に門戸を開く。

●10/15(日経夕刊) わたし体育大

卒 O.L生活楽しんでます 体育大学を卒業した女性が、教職につかず一般企業を選ぶケースが、目立って増えてきた。「スポーツを学んだ女性の特徴は人間関係能力に優れていること」(古藤高良筑波大学教授)という。

●11/29(朝日) 「3人娘」ファン

より騎手 日本中央競馬会は28日、競馬学校の騎手課程11期生の合格者十二人を発表した。うち三人が女性だった。いずれも乗馬、競馬ファン。三百四人が応募、二百十九人が受験、競争率約十八倍の難関を見事突破した。女性騎手は現在、地方競馬に合わせて七人いるが、三年後の卒業試験にパスすれば、三人が中央では初めてとなる。

●1/6(報知) 70メートル級ジャ

ンプ日本初!女の子が飛んだ 雪印杯全日本ジャンプ大会で、日本女性で初

めてノーマルヒル(70メートル級)に挑戦した山田いずみ(札幌宮の丘中1年)がジュニアの部(参加者11人)の8位に入った。「高校生になったらラージヒル(90メートル級)に挑戦したい」といずみちゃん。国際スキー連盟の規約には協議エントリーに男女問わずと記されており、将来、五輪代表のチャンスも…。

●1/20(産経夕刊) 「男の世界」

空手にも女性審判員 格闘技も着実に変わりつつある。柔道では珍しくなくなった女性審判員が空手の全日本選手権にも先ごろ登場した。連盟が、そろそろ良い時期だろうと、女性審判員の採用を決めた。中山三枝さん(34)と大木のみ子さん(43)。これからは、女子の試合は必ず女性審判員がいるようにしたいと二人は希望に胸を膨らませている。

●2/6(朝日) 伊藤みどり米誌登

場 米国の有力週刊誌「ニューズウィーク」二月十日号の表紙を女子フィギュアスケートの伊藤みどりが飾った。同紙の表紙に日本人が登場するのは珍しいことで、伊藤に対する世界的な注目度の高さを示す出来事といえそうだ。